

## ◆特集 雑誌のゆくえ◆

電子ジャーナルのアーカイバルアクセスを  
めぐる現状と今後の方向

岩崎 治郎

抄録：電子ジャーナルの購読中止後に、いったん利用権を得たコンテンツへのアクセスが保証される、いわゆるアーカイバルアクセスは、出版社により条件が異なるので契約時に注意を要する。しかし、全体としてアーカイバルアクセスの条件は整備されつつあり、アーカイバルアクセスはもはや電子ジャーナルへの移行において大きな妨げではないという認識が広まりつつある。また出版社の倒産、テロや天変地異といった万一の事態に備えての第三者機関によるアーカイブ保存は、LOCKSS、Portico、各国中央図書館など複数の実験的なプロジェクトが並行して行われており、今後が注目される。

Key words：電子ジャーナル、アーカイバルアクセス、LOCKSS、Portico、オランダ国立図書館

## I. はじめに

電子ジャーナルの普及に伴い、紙媒体（プリント版）に対するその優位性は広く認識されるようになった。具体的には、郵送によるタイムラグがなく刊行と同時に読める速報性、24時間いつでも、その場で利用できる利便性、キーワード等による検索機能、他の雑誌やデータベースとのリンク機能、利用統計が入手できることなどがある。

電子ジャーナルに駆逐されることによって、プリント版の雑誌が将来なくなるのか否かという問題は、幾度となく議論されてきた。この問題への明快な一つの答えは存在しないと言ってよいであろう。

電子ジャーナルの普及度は、様々な要因に左右されるが、その一つに分野によるものがある。例えば、理工医学（STM）分野では、

プリント版から電子版への移行が早くから進んだのに対し、人文社会科学分野ではその動きが比較的遅い。速報性の重視度、論文に対する研究者の依存度、また利用者の意識が影響していると考えられる。このことから、STM分野ではプリント版が比較的近い将来になくとも不思議はないが、人文社会科学分野では長く残りやすいであろうことが推測できる。

また、図書館が電子ジャーナル購読に切り替えることを防げる要因が存在すれば、プリント版はより長く生き残ることになる。そのような障害の一つとして、将来的にジャーナルの購読を中止した後も、一旦利用権を得たコンテンツへのアクセスが保証されるかという、いわゆるアーカイバルアクセスの問題がしばしば挙げられてきた。

プリント版では、購読した雑誌は物理的に手元に残り、購読の中止後も無期限に利用できるのが問題とならないが、電子ジャーナルではそれほど単純でない。アーカイバルアク

IWASAKI Jiro

(株) 紀伊國屋書店雑誌部マーケティング課  
jiro\_iwa@kinokuniya.co.jp

セスの条件はそれぞれの出版社との契約内容により異なるからである。また出版社が倒産して活動を停止した場合はどうなるのか、テロや天変地異により出版社のサーバーが損傷を受けた場合はどうなるのか、といった不確定要素もある。

将来的なアクセス確保の不透明性から電子ジャーナル導入をためらい、不便を承知でプリント購読を続ける例は世界的にも少なかつた。例えば、2004年1月に英国の機関を主な対象に実施されたアンケート調査では、電子ジャーナルの将来のアクセスへの不安から「紙媒体のアーカイブが、地域協力的な形などで保存されるべき」という回答者の声が紹介されている<sup>1)</sup>。

しかし最近では事情が変わりつつある。2006年1月に英国で実施された調査では、依然として回答者の22%が電子ジャーナルのみの購読に切り替える上での最大の障害として「アーカイブの安全性」を挙げる一方、「アーカイバルアクセスの安全性の問題は、以前ほど重要ではなくなった」とする声が紹介されている<sup>2)</sup>。

また、出版社の倒産、テロや天変地異といった事態におけるアクセス確保手段としての、第三者機関によるアーカイブ保存については、現在各国で様々なプロジェクトが進められている。雑誌出版の今後に大きな影響を与えるものとして注目されている。

本稿では、電子ジャーナルのアーカイバルアクセスをめぐる現状を整理する。電子ジャーナル導入の検討の一助となれば幸いである。

## II. 出版社自身によるアーカイブ提供

図書館の予算状況の厳しさにより、現在購読している電子ジャーナルの契約を将来中止せざるを得なくなる事態はあらかじめ想定しておかなければならない。購読した雑誌が手

元に残るプリント版と違って、電子ジャーナルでは購読中止とともにアクセス権を一切失ってしまうことも起こりうる。契約期間中に持っていたアクセス権をどこまで維持できるかは出版社によって条件が異なるので、契約時に確認しておきたい重要な事項である。条件は大きく分けると次の3つに分類できる。

### 1. アクセス権を維持

購読中止以後のコンテンツは当然利用できなくなるが、それ以前のコンテンツに対してはオンラインアクセスを維持できる契約形態である。アーカイバルアクセスの問題をめぐる図書館界と出版社の議論が進んだ結果、購読中止後のアクセス権維持を保証する出版社は以前よりかなり多くなった。

ただし購読期間中に追加でアクセスを認められていた過去年度分(バックファイル)へのアクセスが失われる場合があるので注意が必要である。購読期間中は実際に購読料金を支払った年度分の巻号だけでなく、電子化されている過去年度の巻号の全て、もしくは一部へのアクセスも認めている出版社が多い。しかし、購読中止後のアーカイバルアクセスの場合は、実際に購読料金を支払っていた年度分の巻号にしかアクセスが認められないことがしばしばある。契約時にその旨留意が必要である。また、出版社自身によるものではないが、米国のOCLC(Online Computer Library Center, Inc.)がアグリゲータとして図書館向けに提供する電子ジャーナルサービスOCLC Electronic Collections Online(以下ECO)は、提供するすべての電子ジャーナルへのアーカイバルアクセスを保証している。具体的には、ECOで電子ジャーナルを購読した図書館は、そのタイトルの購読を中止した後も、最低1タイトルでもECOで購読を維持している場合、過去に利用できたアー

カイブファイルを継続して利用することができる (ECO での購読を一旦全てキャンセルした場合も、5 年以内で再契約すれば、アクセス権が維持される)。アーカイバルアクセスを保証する出版社としか契約しないという OCLC の方針によるものである<sup>3)</sup>。

## 2. 他のメディアでファイルを提供

出版社によっては、個々の利用機関がアクセスできるコンテンツの年度がまちまちなると管理が難しい、あるいは雑誌が別の出版社に移管されて自社から提供できなくなる事態がありうる等の理由で、購読年度分のコンテンツを電子ファイルとして、CD-ROM 等のメディアで提供するところもある。この場合、図書館は電子ファイルを自館のサーバーにアップロードし、機関内のネットワークを通じて利用者に提供することになる。

## 3. 一切不可

購読中止とともに、購読料金を支払った年度分も含めて一切アクセスできなくなり、他の代替的なメディアでも提供を受けられない雑誌もあるので、特に注意を要する。ただ、内容の新しさが重要で、古いコンテンツが必要とされない種類の雑誌では、この契約形態でも特に問題にならないかもしれない。

これらに加えて、最新の論文を読むには有料購読が必要であるが、刊行後一定期間 (例えば 12 ヶ月) を過ぎた論文・記事は無料公開される電子ジャーナルもある。HighWire Press はこの種の電子ジャーナルを多数提供している (リストは <http://highwire/stanford.edu/lists/freeart.dtl>)。

## III. 第三者機関によるアーカイブ保存

出版社がその電子ジャーナルの提供を将来

も継続できるかどうかは 100% 確実でない。出版社の倒産、天変地異の際に代替的なアクセス手段をどうやって確保するかという問題は、以前から図書館・出版界で議論されてきたが、2001 年 9 月の同時多発テロを機に一段と高い関心が寄せられるようになった。

## 1. LOCKSS/CLOCKSS

LOCKSS はスタンフォード大学図書館が中心となって進めているプロジェクトで、LOCKSS とは Lots Of Copies Keep Stuff Safe の頭文字を取ったものである。プロジェクトに参加する複数の図書館が、出版社の許可を得て電子ジャーナルのコンテンツをそれぞれの自館サーバーのキャッシュに保存する。さらに、通信によって他の図書館のサーバーに保存されている内容と随時比較し合い、欠落しているファイルがあれば取得することで、各館のサーバーに保存されている内容を同一に保つ。この一連のプロセスは、Web クローラー等のソフトウェアによって自動的に行われる。これによって、同じ電子ジャーナルのコンテンツが常時複数の図書館のサーバーに保存されることになる。一つのサーバーに障害が生じても残りのサーバーによってバックアップされるというところが LOCKSS の眼目である。利用者は、通常は出版社のサーバーにアクセスするが、出版社のサーバーが何らかの理由でダウンした場合は、同じコンテンツを保存する図書館のサーバーに振り向けられる<sup>4-6)</sup>。

LOCKSS は、米国の多数の大学に加え、英国の 20 以上の大学が参加するなど国際的な広がりを見せている<sup>7)</sup>。

さらに、2006 年には LOCKSS を母体として CLOCKSS (Controlled LOCKSS) という試験的なプロジェクトも始まった。これは、出版社の活動停止等により提供元となる主体

が失われたコンテンツ (orphaned materials) へのアクセスを、LOCKSS と同じ仕組みを使って確保するものである。CLOCKSS によって保存されるコンテンツは、普段は出版社のサーバーが優先されるため利用されることはないが、orphaned materials になったと認定された時点で初めて公開されるようになる<sup>8)</sup>。

## 2. Portico

Portico は、2002年にジャーナルの電子アーカイブを提供する非営利機関 JSTOR によって「電子アーカイビング・イニシアチブ(the Electronic-Archiving Initiative)」の名称で立ち上げられたプロジェクトを母体とし、2005年に独立した非営利電子アーカイブ・サービスである。出版社と図書館の参加を基盤とし、電子的な学術文献を保存し、将来の利用者にアクセスを保証することを使命としている。Portico には、2006年6月2日現在で13の出版社が参加しているが、複数の大手出版社が前述の CLOCKSS と Portico の両方に参加していることが注目される。Portico は参加出版社からコンテンツファイルの提供を受けてサーバーに保存しており、出版社の活動停止、ジャーナルの廃刊、提供プラットフォームにおける長期的な障害など特定の事象(trigger events)により、出版社自身によるコンテンツの提供が不可能となったときに初めて参加図書館へのアクセス提供が開始される<sup>9)</sup>。

## 3. オランダ国立図書館

オランダ国立図書館は、2002年に同じオランダの学術出版社 Elsevier 社と提携し、同社の初の公式アーカイブとして約1,500誌の電子ジャーナルのコンテンツを、可能な限り遡って電子的に受け取り、保存することに

なった。これは、将来同社が万一操業を停止しても、ジャーナルのコンテンツが保持されることを意味する。同館はその後も提携する出版社を増やし、現在では理工医学分野の学術誌の70%以上を電子的に保存している<sup>10~12)</sup>。なお、Elsevier 社は2005年12月に Portico を2つ目の公式アーカイブとした<sup>13)</sup>。

同様の電子アーカイブの試みは、オランダだけでなく各国で進められている。わが国では国立情報学研究所が、国立大学図書館協会と公私立大学図書館コンソーシアムと共同で、世界的な学術出版社 Springer および Oxford University Press の学術雑誌約1,000誌を創刊号まで遡る280万論文の電子アーカイブを導入した。2006年6月2日より、国立大学図書館協会と公私立大学図書館コンソーシアムのいずれかに参加して、それらアーカイブ(バックファイル)の利用契約を結んだ大学の研究者や学生を対象に提供が始まった。国立情報学研究所が従来から構築してきた国内の電子ジャーナルアーカイブと合わせ、計610万論文の電子ジャーナルアーカイブが国内に誕生したことになる<sup>14)</sup>。

## IV. まとめ

購読中止後のアーカイバルアクセスの条件は出版社により様々であるので、電子ジャーナルの導入にあたりまず留意しておきたい。アクセス保証の範囲を導入時に確認することが望ましい。しかしながら、全体としてアーカイバルアクセスの条件は整備されてきているので、もはや電子ジャーナルへの移行にあたって大きな妨げではないという認識が広まりつつある。

しかし各出版社によるアーカイバルアクセスの規定を把握することは必ずしも容易ではない。各出版社のウェブサイトにて Terms & Conditions (利用規約) や License Agreement

(ライセンス契約)の一部として記載されていることが多いが、記載場所が分かりにくかったり、記述が不明瞭であることが珍しくない。またタイトルが他の出版社に移管された場合の契約条件は明確に規定されていないことが多い。電子ジャーナルの取り扱いに十分な経験のある代理店では、主要な出版社のアーカイバルアクセスの条件をあらかじめ把握していることが多いので、必要に応じご相談されることをお勧めする。

目下焦眉となっているのは、万一の事態に備えての第三者機関によるアーカイブ保存である。現時点では LOCKSS、Portico、各国中央図書館など複数の実験的なプロジェクトが並行して行われているが、今後は、これらの試みがある程度整理され、制度として安定的に確立されると考えられる。

#### 参考文献

- 1) Lewis N. Are we burning our boats? Survey on moving to electronic-only. SCONUL Focus. 2004 ; 31 : 57-61. [引用 2006.06.07] [http://www.sconul.ac.uk/pubs\\_stats/newsletter/31/](http://www.sconul.ac.uk/pubs_stats/newsletter/31/)
- 2) Harwood P. Show me the money! Finding value in alternative acquisition strategies. [引用 2006.06.07] <http://www.subscription-agents.org/conference/200602/index.html>
- 3) Electronic Collections Online: Archiving solution [引用 2006.06.15] <http://www.oclc.org/electroniccollections/archiving/default.htm>
- 4) LOCKSS [引用 2006.06.07] <http://www.lockss.org/lockss/Home>
- 5) 栗山正光. デジタル情報の保存に関する研究の動向(3). [引用 2006.06.07] <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/memb/mtkuri/reports/0007.html>
- 6) 後藤敏行. 電子ジャーナルのアーカイブアクセスの観点からみた集中・分散の2方面戦略一. 情報管理 2005; 48(8) ; 509-520. [引用 2006.06.07] [http://www.jstage.jst.go.jp/browse/johokanri/48/8/\\_contents/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/johokanri/48/8/_contents/-char/ja/)
- 7) LOCKSS: Libraries [引用 2006.06.12] <http://www.lockss.org/lockss/Libraries>
- 8) CLOCKSS: Controlled LOCKSS [引用 2006.06.07] <http://www.lockss.org/clockss/Home>
- 9) PORTICO [引用 2006.06.07] <http://www.portico.org/>
- 10) Elsevier and Koninklijke Bibliotheek finalise major archiving agreement [引用 2006.06.08] [http://www.elsevier.com/wps/find/authored\\_newsitem.cws\\_home/companynews05\\_00020](http://www.elsevier.com/wps/find/authored_newsitem.cws_home/companynews05_00020)
- 11) e-Depot and digital preservation [引用 2006.06.07] <http://www.kb.nl/dnp/e-depot/e-depot-en.html>
- 12) Elsevier Science. 「KB」一国家的なアーカイブについてのアップデート ライブラリ・コネクト・ニュースレター日本語版 2004 ; 2(4) : 3-5. [引用 2006.06.07] <http://japan.elsevier.com/librarians/lc/>
- 13) Elsevier Acts to Safeguard E-Journals [http://www.elsevier.com/wps/find/authored\\_newsitem.cws\\_home/companynews05\\_00370](http://www.elsevier.com/wps/find/authored_newsitem.cws_home/companynews05_00370) エルゼビアが電子ジャーナルの公式アーカイブとして Portico と提携 (日本語訳) [引用 2006.06.07] [http://japan.elsevier.com/about\\_us/portico.pdf](http://japan.elsevier.com/about_us/portico.pdf)
- 14) 国立情報学研究所. 日本最大の学術電子ジャーナルアーカイブの実現一大学図書館と連携して 610 万論文に一 ニュース (2006

/06/02) [引用 2006.06.07] [http://www.nii.ac.jp/news\\_jp/2006/06/610.shtml](http://www.nii.ac.jp/news_jp/2006/06/610.shtml)